

取り扱い基準を逸脱した青果物お届けのご報告

2019年3月27日

日ごろ、坂ノ途中をご利用いただき、誠にありがとうございます。

坂ノ途中では、取り扱う青果物に独自の基準を設けています。

※詳細はこちらに記載しています。

<https://www.on-the-slope.com/policy/>

「100年先もつづく、農業を。」という言葉を実に心に留めて、環境に負荷をかけない農業を広げる。それを目指すにあたって、私たちはルールを定めました。

たとえば取り扱い基準のなかには、

「野菜類の栽培期間中、化学合成農薬・化学肥料不使用」のような栽培にまつわる事柄や、「地域、社会、農業に貢献し尊敬できる農家さんとともに歩む」といったような、人の考え方や生き方にフォーカスしたものもあります。

このたび、上記の栽培基準を逸脱した野菜を皆様にお届けしていたことが判明しました。自分たちの未熟さをお詫びするとともに、下記にて詳細をご報告いたします。

【該当品目の概要】

①ミニトマト・ミディトマト

■出荷期間：2017年10月8日～2018年6月30日・2018年9月9日～2019年2月9日

■産地：徳島県

■逸脱内容：トマトーン、多木有機液肥3号を使用し栽培していました。

上記のトマトにつきまして、基準の逸脱が判明した段階、2月9日で取り扱いを停止いたしました。

②マコモダケ

■出荷期間：2018年9月24日(月)～2018年9月29日(土)

■産地：奈良県

■逸脱内容：エムコート777を使用し栽培していました。

※エムコート777使用の経緯について

一昨年までは、水田の後作として無施肥でマコモダケを栽培してましたが、2018年は圃場を確保できず、前作が水田ではないため肥料不足の心配からエムコート777が使用されました。

このときに、生産者さんから弊社への連絡がなく、弊社も前作と同様に「肥料を使わない」と理解していました。本件は、生産者さんの認識不足と、弊社の確認不足によるものです。

上記のマコモダケにつきまして、直近での取り扱いはございません。

なお、上記3資材ともに、国内で一般的に使用されているものです。生産者さんが使用資材について虚偽の報告をしていたわけではなく、紛らわしい資材や弊社基準に対しての誤った認識がその原因です。責任はそれらの資材について、確認、周知徹底ができていなかった坂ノ途中にあります。

【それぞれの資材についてのご説明】

◆トマトトーン

トマトトーンは、トマトが受粉しにくい冬から春にかけて、着果を促す植物調整剤です。

農業と聞いて一般的にイメージされる、虫、草、菌を殺すために用いるものではありませんが、化学合成農業に分類されています。

開花したトマトの花にハンドスプレーで1度散布して使用しますが、虫、草、菌を殺すためのものではないことから、

生産者はじめ農業関係者でも農業という認識が薄い資材です。トマト類の着果促進、

樹勢管理のために非常に多くの生産現場で使用され、家庭菜園用にも販売されています。

当社でもしばしば生産者さんから「一番花にだけトマトトーン使ってもいいようにしてくれへん？」と問い合わせがあります

（トマトは一つ目の花を受粉させないと、その後の実なりが悪くなります）。

圃場の生態系を壊すものではありませんし、使用量もごくわずかです。

トマトトーンを使うことができれば、初夏採りのトマト栽培などはかなり挑戦しやすくなります。

そのため、取り扱い基準を生産者の方にお伝えする際は、しばしば社内でも、使っても良いのではないかと議論の対象になっています。

とはいえ、今の時点では不使用をルールとしている資材です。

※補足資料：トマトトーン（有効成分：4-CPA）の残留についての試算

https://www.on-the-slope.com/corporate/wp-content/uploads/2019/03/20190306_ontheslope_release.pdf

◆多木有機液肥3号

多木有機液肥は、「有機」と名が付いていて有機質成分が配合されているものの、化学肥料由来の成分も含まれています。

作物に水を与える際（灌水）、灌水チューブに希釈（1,000～3,000倍）して根元から吸わせませす。水に溶いて使用する肥料です。

商品名に「有機」とついているのですが、100%有機原料由来ではなく、化学合成された肥料分（尿素）が含まれています。

この点について、認識不足でした。なおこちらも、小瓶が家庭菜園用にも販売されている一般的な資材です。

◆エムコート777（正式名称：水稲用エムコートS100H入り複合777）

水稲での元肥（最初に入れる肥料）として開発、使用されています。

（マコモダケにも相性が良い肥料のため、生産者は使用しています）

肥料分としては、主成分の『窒素、リン酸、カリ』がそれぞれ17%ずつ配合されており、一般的に高度化成肥料と呼ばれるものです。全て化成肥料由来です。

特徴的なのは、肥料分の一部（窒素9.6%）が樹脂や鉱物でコーティングされていることです。

そのため、コーティングされていない肥料が初期に効き、コーティングされているものが、施肥後40～100日間で溶け出していきます。

肥料としては、『初期～後期まで肥料の効果が計算しやすい』資材と言えます。

メリット

- ・一度に肥料分が溶け出さないため、作物が無駄なく吸収できること。
- ・追肥作業が省力化できること。

デメリット

- ・有機JAS農産物では使用できない。

※肥料成分

窒素 17%（うちコーティング肥料が9.6%）

リン酸17%

カリ 17%

【安全性について】

ミニトマト、ミディトマトに使われていたトマトトーンは、一般的に販売・使用されている農薬資材です。家庭菜園用の資材としてもホームセンターで販売されています。

該当の農作物を摂取しましても、身体への安全性に問題はありません。

体重60kgの方が毎日675kgずつトマトを召し上がっていただいても影響がでないというレベルです。

（別紙・補足資料にて試算しております）

今回、多木有機液肥3号(トマト類に使用)、エムコート777(マコモダケに使用)という化学肥料が使用されました。

製造にかかるエネルギーや過程を考慮すれば、化学肥料の方が有機質肥料よりも環境負荷が大きいです。

ただ、有機・化成では肥料成分が分解される過程や、効果の出るタイミングに違いはありますが、土の中で分解、硝化された成分・分子が植物に吸収される、植物内で利用されるカタチは同じです。

今回使用してしまった肥料由来による人体への影響はないと考えております。

【お詫びと今後について】

お客様とのお約束を守れず、誠に申し訳ありませんでした。

私どもの不手際や勉強不足が原因です。坂ノ途中のお野菜やお米、

果物を支持してくださる大きな理由の一つであろう栽培基準を逸脱してしまったことは、

非常に大きな問題だと認識しています。社内全体で考え、早急に改善、対応していきます。

具体的な対応策は以下の通りです。

- ・該当の青果物については既に取り停止しています。
- ・2019年3月6日（水）に現在お取引をしている全生産者さんに、今回の件について周知、説明を行いました。
- ・各生産者さんに栽培に使用する資材リストを提出いただき、弊社の生産者窓口スタッフが、現時点で本件以外に取り扱い基準を逸脱した青果物がないことを確認いたしました。
- ・今後、取引を始めるタイミングに使用資材の一覧を確認します。
- ・すでに取引のある生産者さんには使用履歴を控えていただき、すぐに使用資材を確認できる体制を整えます。
- ・使用資材について、社内スタッフへの研修を実施いたします。

このたびの件、誠に申し訳ありませんでした。重ねてお詫び申し上げます。